

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2025年度)

進捗状況: ◎…予定以上(111%以上) ○…予定通り(90~110%) △…遅れている(90%未満) ×…未着手

【資料1】

事業名		事業内容	実施主体	指標	2026年度 末目標値	2025年度末 実績見込	2025年度実施内容 (振り返り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価	
基本目標Ⅰ(意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり)	(1) 認定農業者・認定新規就農者への支援	① 認定農業者・認定新規就農者事業	都市農業を将来に渡って担う農業者や新規就農者を認定する業務であり、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想で定められた目標を達成するための支援として、施設整備や研修会等を実施することで、農業者の生産意欲向上を図ります。	農業振興課	①認定農業者の新規認定数 ②認定新規就農者の新規認定数	①10名(2名/年) ②5名(1名/年)	①14名(9名/年) ②5名(3名/年)	①2025年度の認定農業者の新規認定数は9名(7経営体)でした。世代交代を検討している農業者に対し、親子等の家族で認定農業者となる共同申請制度の活用を促した結果、目標値を大幅に上回る結果となりました。 ②2025年度の認定新規就農者の新規認定数は3名(3経営体)でした。事前相談をもとに関係団体と協力して取得支援を進め、目標値を達成することができました。引き続き、農業後継者等へ認定制度を周知するとともに、それぞれの農業者の状況に合わせて認定を進めることで、新規認定数の増加を図っていきます。	①◎ ②○
		② 農業振興補助事業	農業者が創意工夫を発揮し、経営の改善及び合理化を目指した事業に対し補助を行います。	農業振興課	認定農業者及び認定新規就農者の事業実施件数	40件(8件/年)	31件(6件/年)	2025年度は3件の申請に対して補助を行いました。また、2026年度要望者の中から追加で3件の補助を行いました。累計すると目標値を達成できませんでしたが、補助対象者を認定農業者及び認定新規就農者としたことで、昨年度に引き続きすべての申請者に補助を行うことができました。今後も、認定農業者等が農業経営の改善や作業の効率化を図っていけるよう支援を行っていきます。	△
		③ 都市農業振興施設整備事業	認定農業者等が収益性の高い農業経営を行う上で必要な施設整備支援を行うことで、経営力の向上、都市農地の保全及び都市農業が持つ多面的機能の更なる発揮を進めます。	農業振興課	実施主体数	6件(1件/年)	2件(1件/年)	2025年度は1件の申請に対して補助を行い、ストロングハウスを整備しました。累計すると目標値を達成できませんでした。また、2026年度実施分については2件の要望があったため、実施に向けた調整を行っています。	△
		④ 都市農業振興施設整備事業(旧:新規就農者定着支援事業)	認定新規就農者が、就農に必要な施設整備や機械導入等を支援することで、早期に農業経営を安定させることを目指します。	農業振興課	実施主体数	5件(1件/年)	0件(1件/年)	引き続き、本事業を広く周知し、認定農業者等が経営力強化や都指定の新技術を導入できるよう支援を行っていきます。	△
		⑤ 新規就農者育成総合対策経営開始資金事業(旧:農業次世代人材投資事業)	次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農直後の経営確立を支援する資金を交付し、市内での農業への定着を図ります。	農業振興課	新規交付対象者数	5名(1名/年)	1名(1名/年)	2024年度に制度を案内した新規就農希望者1名から申請があり、資金の交付を開始しましたが、累計すると目標値を達成できませんでした。引き続き、新規就農希望者に本事業を案内し、希望に応じて調整を図っていきます。	△
(2) 新たな担い手の育成・支援	① 農業研修事業	営農技術のみならず、就農に必要な農業経営のスキルや、農地賃借等の農地に関する法知識も習得できるようなカリキュラムを新たに整備することで、就農希望者の育成に特化した研修事業を実施し、確実な新規就農者の輩出を目指します。	農業振興課	新規就農した人数	2022年度～2024年度 3名(1名/年) 2025年度～2026年度 4名(2名/年)	9名(2名/年)	2025年度は15期生12名、16期生13名、フォロー研修生6名が受講しました。研修修了年次である15期生12名のうち、2名が新規就農する見込みであり、目標値を大幅に上回る結果となりました。また、2026年度から農業研修修了生を対象とした期間限定の市有農地賃借制度を実施するために、2025年度は2名の希望者に対して市有農地の賃借を試行しました。そのうちの1名は、2025年度に認定新規就農者となっています。2026年度は、試行結果を検証しながら本格実施に向けて準備を進めていきます。	◎	
	② 援農ボランティア育成事業	高齢化、後継者不足等の理由により担い手が不足している農家を支援するため、野菜の収穫等の農作業を行う援農ボランティアを育成します。	農業振興課	援農ボランティア修了者数	40名(8名/年)	41名(9名/年)	2025年度は9名が研修を修了する見込みで、目標値を達成することができました。引き続き、研修継続に向けて実施団体を支援していきます。	○	
	③ 農業のデジタル化の推進	農業者の生産現場や流通現場において、スマートフォン等電子機器を用いた農業データの活用や、インターネットを活用した情報発信・販路拡大への支援を行うとともに、行政手続のデジタル化を推進することで、効率的な都市型農業経営の実現を目指します。	農業振興課	デジタル技術の導入	導入	完了	農業振興事業補助金において、2024年度実施分からスマート農業にかかる経費を補助対象に加えるなど、さらに市内農家のデジタル技術導入促進のための体制を整えました。農業のデジタル化の推進については昨年度で完了していますが、引き続き、デジタル技術の導入実績や事業の周知を図るなど、市内農業へのデジタル化の普及に努め、効率的な都市型農業経営へ取り組む農業者の増加を目指します。	○	
(3) 安全で安心な生産支援	① 堆肥流通促進事業	農産物を生産する市内農業者等に対し、市内畜産農家が生産する堆肥を購入する経費を補助することにより、市内産堆肥の流通促進を図ります。安心・安全で環境に優しい農産物の生産に取り組む農業者を中心に、事業の活用を促していきます。	農業振興課	市内堆肥の取引量	915t(183t/年)	501t(108t/年)	2025年度の年間取引量は108.25tの見込みで、目標値を達成できませんでした。堆肥の供給量の減少に伴い、補助申請件数及び1回あたりの堆肥購入量が減少しています。引き続き、認定農業者等へ本事業を案内し周知していきます。	△	
	② 農作物獣害防止対策事業	増加する加害獣による農作物への被害を防止するため、関係団体と連携して農地等へ箱罠やくくり罠を設置し、加害獣の捕獲・駆除を行い、被害の減少を図ります。	農業振興課	被害対象獣の捕獲数	410頭(82頭/年)	383頭(90頭/年)	大型獣に関しては東京都猟友会町田地区に、中型獣に関しては町田市農業協同組合に、それぞれ捕獲及び処分に至る駆除一式の業務を委託しました。2025年度の捕獲数は90頭の見込みで、目標値を大幅に上回る結果となりました。加害獣の生育環境や異常気象等の餌の増減による環境変化が影響していると考えられます。引き続き、獣害防止対策事業を実施していくことで、農産物の被害減少に努めます。	◎	

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2025年度)

進捗状況: ◎...予定以上(111%以上) ○...予定通り(90~110%) △...遅れている(90%未満) ×...未着手

【資料1】

事業名	事業内容	実施主体	指標	2026年度末目標値	2025年度末	2025年度実施内容 (振り返り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価
					実績見込		
(1) 遊休農地の解消	①農地再生事業	農業振興課 農業委員会	農地整備面積	1ha(10,000㎡、2026年度累計)	0.3ha(3,725㎡) (1,725㎡/年)	2025年度は、市が所有する未活用農地のうち1,725㎡について整備・再生を行い、農業研修修了生の新規就農向け農地として活用を始めましたが、累計すると目標値を達成できませんでした。引き続き、耕作が行われていない市有農地を効率的・効果的に再生するため、東京都の補助制度を活用した新たな農地再生事業について検討を進めます。	△
	②農地あっせん事業	農業振興課 農業委員会	新規農地あっせん成立件数	15件(3件/年)	9件(1件/年)	借り手を探している農地1件について市内の担い手へ情報公開した結果、マッチングは成立しましたが累計すると目標値を達成できませんでした。担い手バンクについては、新たに2名の方を登録しています。引き続き、市内の遊休農地解消のため、積極的に農地貸借のマッチングを実施します。	△
	③農地パトロール事業	農業委員会	農地の利用状況が改善した割合	100%	81%	市街化調整区域の農地23箇所(約20,402㎡)のうち、11箇所について遊休農地であることを確認しました。肥培管理指導等を行った結果、うち9箇所について所有者が自ら耕作して農地として改善されました。残りの2箇所については、農地バンクの活用など貸借に向けて働きかけを行っています。引き続き、農地パトロールを実施して、農地の利用状況改善を図ります。	△
(2) 都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮	①都市農地貸借円滑化事業	農業振興課 町田市農業協同組合	生産緑地貸借新規成立件数	15件(3件/年)	5件(1件/年)	町田市農業協同組合と連携し、傷病等の理由で生産緑地での耕作の継続が困難な土地所有者に対して借り手とのマッチング支援を行った結果、1件の貸借契約が成立しましたが、目標値を達成できませんでした。今後は、生産緑地の貸借について気軽に相談ができる仕組みとして農業者への周知を図るとともに、引き続き貸借支援に努めます。	△
	①災害時協力農地・井戸協定事業	防災課	①災害時協力農地登録面積 ②災害時協力井戸件数	協定継続	協定継続	2025年度の災害時協力農地の協定面積は115,415.51㎡、災害時協力井戸の協定数は269件でした。協力農地の協定面積は微減したものの、協力井戸の協定数は昨年度から1件増加しています。引き続き、両協定の継続に向けて、市ホームページ等で周知を図っていきます。併せて、協力井戸の水質検査や防災マップ及び防災WEBポータル掲載などを通じて、協定継続に努めるとともに、地域防災力の向上に寄与するよう取り組みます。	○
(3) 農地が持つ多面的機能の発揮	②農福連携事業	農業振興課	事業化	事業化	試験実施	2024年度に実施した農業に取組む市内福祉団体及び認定農業者へのアンケート調査の内容をもとに、市内で実施されている農福連携事業の紹介や農福連携に関する相談窓口の設置等、事業化に向けた体制構築の準備を行いました。2023年度から農福連携の試験的取組が始まったNPO法人では、貸借した三輪町及び図師町の農地(田んぼ)で障がいのある方が農作業を行っているほか、市民参加型の米作り体験事業を継続して実施しました。また、当該農地で作られたもち米を活用し、放課後等デイサービスを対象とした出張餅つき体験など、新たな取組も実施しています。今後は、事業化に向けて市内農福連携事業の周知等、準備を進めます。	○

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2025年度)

進捗状況: ◎・・・予定以上(111%以上) ○・・・予定通り(90~110%) △・・・遅れている(90%未満) ×・・・未着手

【資料1】

事業名	事業内容	実施主体	指標	2026年度 末目標値	2025年度末	2025年度実施内容 (振り返り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価	
					実績見込			
基本目標Ⅲ(立地を活かした地産地消の推進)	(1)ブランド力の向上							
	①まち☆ベジ推進事業	町田産農産物のシンボルマークである『まち☆ベジマーク』をPRすることで、安心・安全・高鮮度である町田産農産物の周知を図るとともに、ウェブ・SNS等を活用した農業情報の発信や、子ども向け農業情報誌の配布、農業体験等を通じて、『まち☆ベジマーク』の認知度の向上を図ります。また、より多くの市民にまち☆ベジを知ってもらい、食べてもらう機会を設けるため、町田産農産物を使う飲食店や加工品販売店を『まち☆ベジグルメ店』として登録し、登録店を増やします。	農業振興課	①まち☆ベジマークの認知度 ②まち☆ベジグルメ店新規登録店舗数	①30.0% ⇒50.0% ※目標値を上方修正(市内小・中学校へのアンケート実施) ②10店舗(2店舗/年)	①(2025年度)目標値: 48.5% 実績: 52% ②14店舗(8店舗/年)	①「まち☆ベジ」の認知度について市内の小中学生及び保護者にアンケート調査を行った結果、「まち☆ベジを知っている」と回答した人が52.0%、「知らない」と回答した人が47.4%で、目標値を達成しました。(前回実施比約8%増) 認知度向上のための事業として、主に以下の取組を実施しました。 ・市内農業情報を掲載した「まち☆ベジBOOK」の第3弾の配布 ・ターミナルプラザ等のデジタルサイネージでPR動画等を配信 ・市内の小中学生を対象とした「町田市立小・中学校朝食レシピコンテスト」を実施 ・市立中央図書館でまち☆ベジに関する特集コーナーを設置 ・生涯学習センターとコラボしてまち☆ベジに関する講座の実施 引き続き、様々な手法で積極的なPRを行い、まち☆ベジ及びまち☆ベジマークの認知度向上を図ります。 ②2025年度は新たに1店舗の登録があり、目標値を大幅に上回る結果となりました。引き続き、市ホームページやまち☆ベジBOOK等でまち☆ベジグルメ店をPRすることにより、新規登録店舗数の増加を図ります。	①○ ②◎
	①学校給食食材供給事業(小学校)	小学校と農業者をつなぎ、給食への安心安全な市内産農産物の供給量の増加と食育の推進を図ります。	農業振興課	補助事業の継続実施	継続実施	継続実施	保健給食課と連携し、小学校給食への市内産農産物の供給を本年実施しました。出荷事業者のうち、申請のあった約16名(上半期申請分)の市内農家及び町田市農業協同組合に対して、補助事業を継続実施しました。また、7月と12月には、市内全小学校(40校)で町田産の野菜やお米を使用したまち☆ベジ給食を提供し、食育の推進を図りました。引き続き、小学校給食への食材供給補助を継続する予定です。	○
(2)市内産農産物の流通促進								
②学校給食食材供給事業(中学校)	2024年度からの中学校全員給食・中学校給食センター方式の導入に伴い、市内産農産物の供給方法について検討し、活用を進めます。(市内3ヶ所に整備)	保健給食課	市内産農産物の供給開始	2024年度1ヶ所目供給開始 2025年度2、3ヶ所目供給開始	2、3ヶ所目供給開始	2024年度に供給開始した鶴川エリアに続き、2025年4月に町田忠生小山エリア、10月に南エリアの中学校給食センターにおいて、町田市農業協同組合から市内産農産物の供給が開始しました。これにより、市立中学校全校で市内産農産物を活用した給食の提供が始まり、事業が完了しました。	○	
③市内産農産物流通促進事業	市内産農産物の地産地消推進及び市民の利便性向上のために、既存の生鮮食品ECプラットフォームを拡大し、安定的な農産物の域内流通促進を図ります。また、多様な販売チャネルを比較検討し、導入に向けた支援を行います。	農業振興課	生鮮宅配ボックスの設置箇所 ⇒子育て世帯のうち「まち☆ベジ」を購入したことがある人の割合	30箇所(2026年度までの累計) ⇒44%(前年比3%増/年、2026年度時点)	(2024年度)目標値: 38% 実績: 77%	「まち☆ベジ」を購入したことがあるかについて市内の小中学生保護者にアンケート調査を行った結果、「購入したことがある」と回答した人が77%、「購入したことがない」と回答した人が23%で、目標値を大幅に上回る結果となりました。(前回実施比8%増) 2025年度は、子育て世帯に市内の直売所へ継続的に来ていただく取組として、町田市農業協同組合及び子どもセンターばあんと連携し、アグリハウスみなみで「キッズフェスタ」を実施しました。また、昨年度に引き続きアグリハウスつるかわでも子ども向けの企画を実施しました。 引き続き、アグリハウスにおける子ども向け企画を実施し、子育て世帯に対して直売所やまち☆ベジのPRを行います。また、2024年度のニーズ調査の結果をもとに、子育て世帯のライフスタイルに合った市内産農産物の販売方法について事業案の検討に着手し、調整を進めます。	◎	

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2025年度)

進捗状況: ◎・・・予定以上(111%以上) ○・・・予定通り(90~110%) △・・・遅れている(90%未満) ×・・・未着手

【資料1】

事業名		事業内容	実施主体	指標	2026年度 末目標値	2025年度末 実績見込	2025年度実施内容 (振り返り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価						
基本目標Ⅳ(多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上)	①薬師池公園四季彩の杜事業	四季彩の杜西園直売所を広くPRすることで、市民が地場産農産物を購入出来る機会を増やすとともに、フットパス等の歩行系レクリエーションネットワークや体験農園を活用し、農にふれあう機会を創出します。	農業振興課	農にふれあう機 会の創出	継続実施	継続実施	2024年度末に発行した「まち☆ベジBOOK」を、市関係施設や小学校、農業祭等のイベントなどで配布し、西園直売所やふるさと農具館などの四季彩の杜にある農閑連施設を周知しました。また、2022年度末に発行した「まち☆ベジBOOK」に掲載している四季彩の杜内の農に関わる施設やイベントをめぐる散歩コースをまち☆ベジ推進事業実施時に掲出し、市民が気軽に農に触れ合う機会をPRしました。	○						
			公園緑地課			継続実施	四季彩の杜西園では、直売所にて季節ごとに旬の町田産野菜や園内の畑でとれた農産物を販売しているほか、カフェ・レストランで地場食材を取り入れたメニューの提供を行いました。季節毎に玉ねぎやブルーベリーの収穫体験ができる農園を利用したワークショップを開催し、農に触れ合う機会の創出に努めました。また、公園が様々なメディアに取り上げられる機会があり、来園者が増えたことで四季彩の杜西園直売所のPRにもつながりました。2026年1月には町田の農の活性化につながる冊子「ベジレット」第4弾を発行し、農業への関心を高める活動も行っています。							
			観光まちづくり課			継続実施	東京都主催の多摩の魅力発信プロジェクトで、大学生を対象とした市町村事業のPR場所として、四季彩の杜西園を選定し認知度向上を図りました。また、閑散期である夏期にスタンプラリーも開催し、自然に触れる機会の提供とエリア内の回遊性向上を図りました。							
	②農業体験事業	市民農園、体験農園及び収穫体験農園(観光農園)や農家開設型市民農園等、さまざまな農業体験を市民にPRし、利用者募集などの広報を行います。	農業振興課	農業体験事業の実施	37園	35園	6月に農家開設型市民農園が1カ所閉園したほか、2月に七国山ファーマーズ農園が閉園したことで累計35園となり、目標値を達成することができませんでした。また、金森と三輪緑山にある2つの町田市市民農園については、法改正により農地所有者や法人など多様な主体が貸借によって都市農地に市民農園を開設できるようになったことをふまえ、使用貸借期間が終了する2026年度末をもって閉園します。引き続き、民営の市民農園等の開設を促進するため市ホームページなどで周知していきます。	△						
③食育体験事業	農業と商業の協働による食育の取組を行います。	農業振興課 保健予防課	食育体験の実施	実施	実施	実施	子どもセンターばあんで実施した夏祭り、農業と商業のイベントであるキラリ☆まちだ祭(農業祭)、アグリハウスみなみで実施したキッズフェスタにおいて、成瀬高校地域活性化プロジェクトの生徒が「町田産ポップコーン」を販売しました。販売にあたり、仕入れや提供方法の決定、価格設定、準備等、すべて生徒自身が行いました。市内産のゆずから作った「ゆず塩」を味付けに使用するなど、地産地消の食育体験を行いました。	○						
						実施	12月13日に「まちだの食をまるっと楽しむ! ~まち☆ベジ収穫体験&FC町田ゼルビア応援給食クッキング~」というテーマで、町田市農業協同組合と連携し、収穫体験や調理実習等の食育体験事業を実施しました。収穫体験やJA町田市職員の講話を通じて町田の農業や地産地消などについて学ぶとともに、調理実習では市内小学校で提供している「FC町田ゼルビア応援給食」を町田産野菜を使って調理することで、食や野菜についての興味関心を高める機会をつくりました。2026年度も年1回の開催を予定しています。							
④七国山景観作物協定事業(四季彩の杜北園事業)	来訪者に農の風景を楽しんでもらえるよう地元の農家組合と協定を結び、七国山地区に1年を通して景観作物(そば・菜の花・ひまわり等)を栽培します。収穫物は加工・販売を行います。薬師池公園四季彩の杜北園開園の後にも引き続き美しい農の風景を維持し、多くの市民が味わえるような加工品等を提供します。	農業振興課	1年を通して景観作物を栽培し、農の風景を維持する	事業継続	事業継続	事業継続	七国山地区に菜の花、ひまわり、そばの景観作物を継続して栽培しました。開花時期には、市の広報紙やホームページに加え、プレスリリースを行ったことで、新聞などのメディアに掲載され、広くPRすることができました。また、開花後の景観作物も市民に楽しんでいただくため、11月に「そばの実の収穫体験」、3月に「そば打ち教室」を実施しました。引き続き、より多くの市民が様々な体験を通じて農の風景を楽しめる機会を創出してまいります。	○						
						①農業祭事業	農業者の生産意欲の高揚と、都市農業の重要性の認識と理解を深めることなどを目的に農業祭を実施し、市の農業を積極的にPRするとともに、商工業者との連携を通して農業の活性化に繋がります。		農業振興課	来場者数	20,000人	9,100人	例年実施している農産物即売会や品評会、農業関係者等によるブース出店を実施したほか、成瀬高校町田活性化プロジェクトや青少年健全育成森野地区委員会、子どもセンターまあち、FC町田ゼルビア、ASVベスカドーラ町田等と連携し、昨年度以上に子育て世帯が農業祭を楽しめるような子ども向け企画の実施や飲食物の販売を行いました。しかし、天候に恵まれず今年度は9,100人(昨年度比約600人減)の来場となり、目標値を達成できませんでした。今後も、特に子育て世帯を中心として、多くの方に来場していただけるような企画を実施していきます。	△
						②ふるさと農具館事業	市の農業の歴史及び農家の生活様式を紹介し、市民の農業に関する知識の普及と、関心の向上を図る施設として活用します。併せて、市内小学生の社会科見学の場として活用することで、農業をより身近に感じてもらう機会を提供します。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて、施設の在り方を検討します。		農業振興課	年間入館者数	22,099人(前年比10%増、2026年度時点)	(2025年度目標値: 20,090人) 実績: 15,772人	農具の展示や社会科見学の受け入れ、毎月1回の菜種油しぼりの実演販売のほか、春・夏・秋と四季彩の杜内にある他の施設と連携したイベントを実施しました。子どもたちにもわかりやすいよう、展示物の案内にはすべてふりがなを振り、農具の仕組みが理解できる模型を作成して体験コーナーを設置するなどの施設サービスの充実にも努めました。年間入館者数は15,772人の見込みで、目標値を達成できませんでした。(昨年度比164人増)引き続き、社会科見学の受け入れやイベントの実施をすることで、年間入館者数の増加を図ります。	△
③七国山ファーマーズセンター事業	自然や農業とふれあうことのできる拠点施設として活用します。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて、施設の在り方を検討します。	農業振興課	年間入館者数	8,234人(前年比10%増、2026年度時点)	(2024年度目標値: 7,486人) 実績: 6,030人	春・夏・秋と四季彩の杜内にある他の施設と連携したイベントを実施しましたが、年間入館者数は6,030人の見込みで、目標値を達成できませんでした。(昨年度比668人減)今後は現状の分析を行い、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて廃止の可能性も含めた施設の在り方の検討を行います。	△							